

# 寸言

一般社団法人日本航空宇宙工業会  
専務理事

藤野 琢巳



## 就任にあたって

この度、日本航空宇宙工業会の第11代目の専務理事を拝命いたしました藤野琢巳（ふじのたくみ）です。微力ではありますが、全力を尽くして職責を全うしたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

経済産業省在職中には9年半の海外勤務、3年の東京外での勤務を含め、幅広く種々の職務を経験させていただきました。航空宇宙関係につきましては、岐阜県に出向した際の岐阜かかみがはら航空宇宙博物館のリニューアルに向けた調整や、JETROロンドン出向時の2018年の英国ファンボローにおけるエアショーの際の中小企業の海外進出支援に係る業務を担当させていただきましたが、正面から我が国航空宇宙産業の発展に向けた業務に携わることとなりましたのは、今回が初めてであります。

当工業会を取り巻く情勢はこの数年で劇的な変化を迎えていると承知しております。直近の大きな変化としては、新型コロナウイルスによる人流の停滞とそれに伴う航空旅客需要の停滞、さらにはその結果としての航空機需要の減退が第一に挙げられるかと思われまます。昨年度の我が国航空機生産額は対前年比3割以上の減となっており、IATAは2024年に国際航空旅客の需要回復を予想しておりますが、需要低迷の長期化の懸念があり、注視をしていく必要があります。

他方で新たな技術課題が大きく上がってきており、その新たなフロンティアをいかに開拓していくかという課題もコロナ対応と同様の比重をもって顕在化してきているものと考えております。これは航空機分野における

CO<sub>2</sub>排出削減への対応に限らず、新たな超音速機へのニーズや、従来とは全く異なった宇宙と航空との領域の相対化といった現象まで進んできております。

当工業会としてはまずは直近の課題としての産業基盤の維持という観点からの航空分野以外での緊急対応としての需要の開拓や、人材流出を防止するという観点からの雇用対策を関係者との協調の下その実施体制を構築することが重要かと考えます。またすでに進捗している防衛装備品等を含めた適切な海外展開の一層の進捗等をも含めた需要の拡大や、次期戦闘機の我が国の総力を挙げた開発の円滑な進捗を進めていくことが大切だと考えます。

また、宇宙分野の開拓のための技術開発の一層の推進に向けた関係機関や新たなビジネスを展開される企業群との連携をさらに図っていくとともに、内外の状況に係る情報の整理伝達、さらには宇宙産業を支える基盤インフラの在り方等についての議論を関係当局と進めていくことや、宇宙と航空の融合の動きをフォローしていくことも必要と考えております。

航空宇宙産業は、すそ野が広く経済波及効果も大きな産業であるとともに、安全保障にも直結する重要な産業であることは論を待たないところであります。この重要な産業を大きく飛躍・発展させていくために会員企業の皆様方、関係省庁・団体の結節点として連携を密にし、さらに強固なものにしていくべく努力し、皆様方の期待に沿えるような事業の推進に心がけてまいります所存でございます。ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。